

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 埼玉医科大学
理事長 丸木 清浩

埼玉医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	90.1人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	328人	150人	362.2人	看護補助者	79.3人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	10人	15人	13.4人	理学療法士	22.0人	臨床検査 衛生検査 その他	臨床検査技師 74.0人
薬 剤 師	64人	0人	64.0人	作業療法士	12.0人		衛生検査技師 0.0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	7.0人		そ の 他 0.0人
助 産 師	30人	0人	30.0人	義肢装具士	0.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
看 護 師	750人	26人	768.8人	臨床工学技士	25.0人	医療社会事業従事者	11.0人
准看護師	37人	9人	42.9人	栄 養 士	29.0人	その他の技術員	17.0人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	3.0人	事 務 職 員	112.3人
管理栄養士	16人	0人	16.0人	診療放射線技師	47.0人	そ の 他 の 職 員	84.4人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	686.4 人	7.3 人	693.7 人
1日当たり平均外来患者数	1532.8 人	43.5 人	1576.3 人
1日当たり平均調剤数	外来 801 剤 入院 685 剤	合計 1,486 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	17人
超音波骨折治療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.1

医療技術名	多発性骨髄腫に対するプロテアソーム阻害薬による治療	取扱患者数	13 人
当該医療技術の概要 再発・難治性の多発性骨髄腫に対して、プロテアソーム阻害薬であるボルテゾミブを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、寛解が得られた症例については、分子生物学的手法により微小残存細胞についての評価を行う。			
医療技術名	多発性骨髄腫に対するサリドマイド、レナリドミドによる治療	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 再発・難治性の多発性骨髄腫に対して、サリドマイドあるいはレナリドミドを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、造血幹細胞移植併用大量化学療法後の症例にも、維持療法として用い、その有用性を検証する。			
医療技術名	骨髄異形成症候群に対するシクロスポリン療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 厚生労働省科学研究「特発性血小板減少性紫斑病造血障害に関する研究班」の多施設共同研究により、骨髄異形成症候群に対するシクロスポリン療法の有効性を検討する。			
医療技術名	骨髄異形成症候群における細胞形態学的再分類	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 骨髄異形成症候群における従来の分類を、主に細胞形態学的方法でさらに発展させ、より予後に反映し、臨床的に有用な再分類をめざし検討を行う。			
医療技術名	発作性夜間ヘモグロビン尿症に対するエクリズマブ療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 発作性夜間ヘモグロビン尿症に対して、補体活性化経路の C 5 に作用するヒト化 C 3 ブロッキングモノクローナル抗体であるエクリズマブを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	免疫性神経疾患のリンパ球サブセット・サイトカインからみた診断	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要 非ヘルペス性辺縁系脳炎を中心として脳炎・脳症の発症、進展にかかわる免疫機序の関与について、末梢血リンパ球サブセットならびに髄液サイトカインを検討し診断、治療に役立てている。			
医療技術名	発汗障害患者に対する軸索反射性発汗機能の検討	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 各種発汗障害患者に対し、軸索反射性発汗試験を行い発汗系交感神経節後機能を検討し診断、治療に役立てている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.2

医療技術名	各種自律神経疾患における血圧・心拍の周波数解析	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者の血圧・心拍数を連続記録し、血圧・心拍の周波数解析を行っている。これらの結果から、交感・副交感神経機能を検討し、病態把握に役立てている			
医療技術名	各種自律神経疾患における交感神経性皮膚反応検査	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者に本試験を実施することにより精神性発汗を検討している。この検査によって発汗の反応経路（中枢神経～末梢神経～汗腺）における障害の有無を明らかにし、診断、治療に役立てている。			
医療技術名	総胆管結石および胆管内腫瘍における術中胆管内内視鏡超音波検査	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要 総胆管結石の遺残の有無や胆管内腫瘍の局在や浸潤の程度などを手術中に検査でき、通常の超音波検査に比べ有用性が高い。			
医療技術名	新たな電気メス（エンドカット）を用いた乳頭括約筋切除術	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 従来の乳頭括約筋切開法に比べ、凝固と切開が自動的に制御され、安全に出血が少なく切開できる。			
医療技術名	ハーモニックスカルペルを用いた痔核切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 従来の電気メス、ハサミを用いた痔核切除術に比べ、出血量が少なく手術時間も短縮でき、術後疼痛が軽減する。			
医療技術名	小児腹腔鏡手術	取扱患者数	110人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプルング病、急性虫垂炎、停留精巣、腫瘍（良性、悪性）、食道裂孔ヘルニア、胃食道逆流症など多くの疾患に侵襲の少ない腹腔鏡下に手術を行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア病（ミトコンドリア呼吸鎖異常症）の酵素診断	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア呼吸鎖異常症は、いかなる症状、いかなる臓器・組織、何歳でも、そしていかなる遺伝形式でも発病し、出生 5,000 人に 1 人とされる最も高頻度の先天代謝異常症である。私たちは細胞、臓器、組織を用いた呼吸鎖酵素解析法を開発し、日本で唯一ミトコンドリア呼吸鎖異常症を正確、迅速に診断できることを可能にした。			
医療技術名	高頻度振動換気療法（HF0）	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 新生児における呼吸窮迫症候群などの重症呼吸障害の際に使用し、自発呼吸に依存せず高頻度振動を用いて換気を行う結果、新生児の未熟な肺の損傷を軽減し換気を行うことができる人工換気法である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.3

医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 新生児仮死で出生した児の脳に対するダメージを最小限に止めるため、出生時より脳を低温に保つ治療法（34℃、72時間）。			
医療技術名	アフエレーシス	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 自己抗体に関連した血管炎に対する抗体除去療法としての全血漿交換、敗血症症例に対するエンドトキシン吸着、劇症肝炎に対する人工肝臓としての血漿交換・持続血液濾過透析、インターフェロン療法抵抗性、高ウイルス血症に対する DFPP、自己免疫性神経疾患に対する免疫グロブリン吸着療法など、あらゆる血液浄化法を提供している。			
医療技術名	持続血液濾過透析（小児を含む）	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 血行動態の不安定な重症症例に対する持続血液濾過透析療法に関して、24時間対応可能な体制を維持している。専用の集中治療室（renal intensive care unit）を備え、透析の専門知識を有する医師・看護師・臨床検査技師が常駐している。1歳未満の小児に対して、腹膜透析が困難な場合、小児科・小児外科と連携し、持続血液濾過透析を施行している。			
医療技術名	関節リウマチならびに自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与	取扱患者数	260人
当該医療技術の概要 多剤抵抗性の関節リウマチや難治性の自己免疫疾患に対して、TNF α 、IL6やCD28 (Tcell) の阻害療法が有用であることが知られている。当科でもこれら生物学的製剤を投与することにより、従来の治療法では困難だった関節リウマチ患者の関節破壊の抑制や患者 QOL の改善、自己免疫疾患の炎症反応の抑制が可能となった。今後製剤の追加や適応拡大が期待されており、一層有効な治療法になると考えられる。			
医療技術名	体外受精	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 原則として、体外受精・胚移植法は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療である。具体的には、 ・一般的な不妊治療であるタイミング法、排卵誘発法、人工授精等を十分行ったが妊娠できなかった夫婦。 ・精子濃度が低い、精子運動性が不良など、男性因子がある場合。 ・両側卵管切除後の場合や、子宮卵管造影検査／腹腔鏡検査により両側卵管の閉塞や癒着による機能障害が確認された場合。 ・抗精子抗体が陽性で、人工授精では妊娠できない場合。 などが適応となる。 体外受精・胚移植法は、卵巣で発育した卵子を体外に取り出し（採卵）、精子と受精させ（媒精）、数日間体外で育て（培養）、得られた受精卵（胚）を子宮内に戻す（胚移植）方法により、妊娠成立を目的とする不妊治療である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.4

医療技術名	顕微授精	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 原則として、顕微授精は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療です。具体的には、 <ul style="list-style-type: none">・体外受精を十分行ったが受精卵が得られなかったり、良好胚が得られなかった場合・精子濃度が極めて低い、精子運動性が極めて不良など、高度男性因子がある場合・精巣内精子、精巣上体精子を用いる場合・精子-透明帯/卵細胞膜貫通障害・抗精子抗体陽性の場合 などが適応となる。 採卵した卵を前処理した後、顕微鏡下で保持する。この卵に同じく前処理した精子を細いガラス管で注入する。この方法により受精能力の低い精子でも受精させることができるようになってくる。精液中に精子が全く見つからない場合には、精巣から組織を採取してその中から精子を回収し、顕微授精を行う方法 (TESE) もある。 採卵数が多く、精子の受精能力がやや低いことが考えられる場合に、採卵した卵を2組に分けて半分を通常の受精方法、半分を顕微授精にすることがある。			
医療技術名	性器脱に関するメッシュ手術	取扱患者数	69人
当該医療技術の概要 TVM手術 (Tension-free Vaginal Mesh手術) は、膣の壁の下に、ポリプロピレンメッシュのシートを挿入し、そこから足の付け根や殿部 (おしり) の小さな傷 (各 5mm 程度、膣の前壁だけなら4カ所、後壁もする時は合計6-8カ所) にメッシュの腕 (メッシュの端からのびた巾 2cm の紐状の部分) を通して、骨盤底の支持組織を強化する術式。原則として子宮はとらない。手術負担が小さいこと (入院期間が短く、傷の痛みが少ない)、再発が少ない (6%) ことから、欧米で普及しつつあり、日本でも導入する施設が増えてきた。			
医療技術名	骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対する経皮的人工骨注入法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 陳旧性の骨粗鬆症性圧迫骨折に対しては、内固定金属を用いた侵襲の大きな手術が必要であるが、低侵襲な手技で早期社会復帰を目指している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.5

医療技術名	嚥下シンチグラフィ	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 99mTc-DTPA 溶液を 10-80mL 嚥下した後に、咽頭、気管・気管支、肺野における残留をガンマカメラによる画像で経時的に評価する。喉頭侵入や誤嚥（食塊の声帯通過）はあるが、咳嗽や繊毛運動などにより排出機能が良好である場合は、経口摂取をしても誤嚥性肺炎を発症する可能性は低い。即ち嚥下造影検査 (VF) で誤嚥が認められても、嚥下シンチで気管支や肺野からの排出が良好であれば経口摂取可能と考えられる。			
医療技術名	音響鼻腔計測法	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 音響を利用した短時間に非侵襲的に鼻腔断面積を測定できる。抗アレルギー薬など鼻閉に対する薬効の客観的評価、手術前後の鼻腔開大効果の客観的評価などに用いている。			
医療技術名	音刺激による前庭誘発頸筋電位検査 (vestibular evoked myogenic potentials:VEMP)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 VEMP 検査は前庭脊髄反射に対する検査法のひとつである。クリックあるいはトーンバースト音刺激を用い、胸鎖乳突筋に現れる筋電位の変化を記録する方法である。この刺激の伝達には、球形囊から下前庭神経、さらに前庭神経核を経由して前庭脊髄路を下行し、頸筋に達する経路が推定されている。内耳機能の評価、前庭神経障害の評価、さらに下部脳幹障害の評価法となり得る可能性がある。			
医療技術名	良性発作性頭位めまい症に対する理学療法	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 良性発作性頭位めまい症の病態に関しては、クプラへの耳石片の付着（クプラ結石症）、あるいは三半規管内の浮遊耳石（半規管結石症）が提唱されている。これらの諸説を念頭に置き、難治性の良性発作性頭位めまい症に対して、particle repositioning maneuver (Parnes 法、Epley 法) や liberatory maneuver (Brandt 法、Semont 法) などの理学療法を試みている。			
医療技術名	Qスイッチルビーレーザーを用いた皮膚色素性病変の治療、 ならびに色素レーザーを用いた単純性血管腫の治療	取扱患者数	509人
当該医療技術の概要 Qスイッチルビーレーザーはメラニンをターゲットとし、太田母斑や他の真皮メラノサイトーシスなどの治療として有効である。色素レーザーは赤血球をターゲットに血管内皮に損傷を与える治療で、単純性血管腫やほかの毛細血管拡張に対し有効である。おのおの第1選択として行っている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.6

医療技術名	天疱瘡に対する大量免疫グロブリン療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 通常の治療に抵抗性の難治性症例に対し、有効である。原因となるデスモゾームに対する抗体の産生抑制、異化亢進が作用機序として考えられている。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍に対するドップラー超音波診断	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍では、悪性黒色腫やエクリン汗孔腫、その他いくつかの腫瘍での血管新生の特徴が明らかになりつつあり、多種にわたる皮膚腫瘍の無侵襲の検査として、鑑別診断のうえで、極めて有効である。			
医療技術名	尋常性白斑、尋常性乾癬、菌状息肉症に対する narrow band UVB 治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 narrow band UVB の有用性が知られており、尋常性白斑、尋常性乾癬、および菌状息肉症に対し行っている。			
医療技術名	新型インフルエンザPCR検査	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 2009年4月より新型インフルエンザ(2009 H1N1)が世界的な流行となった。そのため発熱者の診療では常にインフルエンザは考慮すべき疾患となった。 インフルエンザには簡易な迅速診断法が普及しているものの、A型とB型の鑑別にとどまる。しかし世界的流行を続けるA型インフルエンザは複数の亜型を有する。 PCR法を用いてA型インフルエンザの複数の亜型を感度よく、迅速に検出することにより、患者への負担軽減を行なう。			
医療技術名	FOP遺伝子解析	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 FOPは、2007年3月に厚生労働省特定疾患対策懇談会において難病の1つとして認定された疾患で、筋組織が骨化する疾患として知られる進行性骨化性線維異形成症(Fibrodysplasia Ossificans Progressiva, FOP)である。 小児期に腫瘍が形成されたために癌と診断されたケースが30%程度あることが判明しており、このような背景には、FOPの迅速で正確な診断法が確立されていなかったことが挙げられる。しかし、2006年、FOP患者にACVR1/ALK2遺伝子の中に共通する変異を持つことが報告された。遺伝子診断は、FOPの異所性骨化の発症前でも可能である上、迅速・正確な検査である。 発症機序の解明および治療法の確立を目指す上では欠かせない検査である。			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.7

医療技術名	レーベル病遺伝子解析	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 レーベル病の検査は、蛍光眼底造影、視力検査、視野検査、画像検査、電気生理学的検査、心電図検査、遺伝子検査が行われる。 レーベル病の急性期では、通常両目に異常が認められ、視神経乳頭は発赤、腫張し、血管は著しく拡張している。 委縮期では、視神経乳頭の耳側の蒼白化が進行し、血管の拡張はみられなくなる。 視神経乳頭の変異、比較的急激な視力低下と遺伝子解析による特異的なミトコンドリアDNAの変異を検査することによりレーベル病と診断する。			
医療技術名	医療用アロンアルファを用いた胃静脈瘤の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 胃穹窿部静脈瘤出血は止血困難例が多く、より簡便に行える方法として、医療用アロンアルファの注入による硬化療法を行っている。IRBの許可を得ており、緊急時に行える体制となっている。			
医療技術名	肝性脳症に対するB-RTOを用いた治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 門脈圧亢進症状に伴う異常血行路による頻回な脳症の発症を予防するため、血行改変を目的に、B-RTOバルーン下逆行性経静脈的塞栓術を行う。IRBの許可を得て行っている。			
医療技術名	シスプラチン製剤（ミリプラチン [®] ）とTACE肝動脈化学塞栓療法 療法の併用による肝細胞癌の治療	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 シスプラチンの粉末製剤とリピオドールの懸濁液を化学塞栓療法として肝癌治療に用いた場合、局所停滞率が高く、腎機能の悪い症例にも適応可能となり利点が高い事が知られている。更に、塞栓物質の注入を併用する事で腫瘍を阻血壊死させる率が高くなると考えられ、IRBの許可を得て行っている。			
医療技術名	重症型アルコール性肝炎に対する白血球（顆粒球）除去療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 重症型アルコール性肝炎では、感染及び腎機能のコントロールが最も重要であり、生命予後に関与する。抗生剤投与、ベエノグロブリン製剤投与等でも感染コントロールがつかない時には、炎症を惹起するサイトカイン等の物質を取り除く白血球（顆粒球）除去療法が有効と考えられ、IRBの許可を得て実施している。			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

高度の医療の提供の実績

No.8

医療技術名	C 型慢性肝炎の宿主側因子の検討—IL28 等	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要 C 型慢性肝炎の治療効果を規定する宿主側の因子として IL28 等の様々な要因がいられている。倫理委員会を通し、C 型慢性肝炎患者様の血液から採取した各要因を分析する事で I F N 治療の効果判定、製剤の選択等に生かせると考えている。			
医療技術名	脳波定量分析およびマッピング	取扱患者数	449 人
当該医療技術の概要 脳波検査時に通常の計測、記録だけでなく、同時に脳波定量分析を行い、周波数帯域別に頭皮上分布の表示（マッピング）をする。これによって脳波の周波数帯域ごとの空間的変化を経時的に比較・検討することができ、薬剤性の脳機能異常や脳器質性疾患の検出、意識障害（せん妄等）の回復度判定などの臨床的判断を定量的な神経生理学的根拠に基づいて行うことができる。システムの保守・運営は臨床神経生理学会認定医・認定技師により行われている。〔施行件数〕			
医療技術名	修正型電気通電療法	取扱患者数	109 人
当該医療技術の概要 静脈麻酔下で筋弛緩を十分に得た状態で頭部電気通電を行う、修正型電気通電療法（modified electro-convulsive therapy (mECT)）を、麻酔科の協力のもと手術室において行っている。薬物療法に治療抵抗性の精神障害（うつ病等の感情障害や統合失調症等）に対する有効性が多く報告されている治療法であるが、埼玉県西部における施行施設は当院だけであり、他施設では対応困難な難治性精神障害治療に関し、県内でその一翼を担っている。〔施行回数〕			
医療技術名	児童・思春期専門カウンセリング・療育訓練	取扱患者数	1,953 人
当該医療技術の概要 広汎性発達障害等の児童・思春期に対し、児童・思春期専門医による診療を中心に、臨床心理士によるカウンセリングや言語聴覚士による療育訓練を組み合わせ、専門的な診療を展開している。他施設では対応困難な児童・思春期診療に関し、法人内「かわごえこどものこころクリニック」と連携し、県西部において重要な役割を果たしている。〔カウンセリング件数 898 回、療育訓練件数 1,055 回〕			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	104人	・膿疱性乾癬	11人
・多発性硬化症	109人	・広範脊柱管狭窄症	14人
・重症筋無力症	157人	・原発性胆汁性肝硬変	1,012人
・全身性エリテマトーデス	2,081人	・重症急性膵炎	17人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	39人
・再生不良性貧血	15人	・混合性結合組織病	400人
・サルコイドーシス	208人	・原発性免疫不全症候群	7人
・筋萎縮性側索硬化症	34人	・特発性間質性肺炎	44人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	808人	・網膜色素変性症	65人
・特発性血小板減少性紫斑病	160人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	6人	・肺動脈性肺高血圧症	11人
・潰瘍性大腸炎	350人	・神経線維腫症	130人
・大動脈炎症候群	35人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	13人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	15人	・慢性血栓性肺高血圧症	7人
・脊髄小脳変性症	57人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	117人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	10人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	46人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	1,000人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	48人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	25人
・後縦靭帯骨化症	33人	・肥大型心筋症	25人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	25人	・ミトコンドリア病	15人
・ウェグナー肉芽腫症	346人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	9人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	36人	・黄色靭帯骨化症	15人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	765人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.1

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	別所 正美	血液内科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
肝疾患の病態における性差：オステオポンチン転写に関わる女性固有転写因子の同定	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	1,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	22,838 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
肝がんの新規治療法に関する研究	今井 幸紀	消化器内科 ・肝臓内科	300 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究 (JDCS)	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
視床下部S 6 キナーゼの糖尿病における役割	小野 啓	内分泌内科 ・糖尿病内科	1,900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
血栓の管腔内成長に対する細胞間相互作用とニューロキニン1受容体の役割の検討	東 俊晴	麻酔科	1,900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.2

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
単球リアノジン1受容体刺激が誘導する細胞死を指標とした悪性高熱症診断法の開発	塚本 真規	麻酔科	1,200 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
ニューロキニン1受容体刺激によるマイクロパーティクル放出の血液凝固に対する影響	星島 宏	麻酔科	1,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
高アスペクト比X線格子を用いた位相型高感度X線医用診断機器の開発	田中 淳司	放射線科	1,300 千円	補 独立行政法人 科学技術振興 機構 委
重粒子線がん治療臨床研究班中枢神経腫瘍部会	藤巻 高光	脳神経外科	100 千円	補 放射線医学総 合研究所 (科学技術庁) 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	鈴木 洋通	腎臓内科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
組織特異的NFκB抑制による腎老化予防効果の検討	岡田 浩一	腎臓内科	600 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
Wolfram症候群の実態調査に基づく早期診断法の確立と診療方針作成のための研究	雨宮 伸	小児科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
治験の実施に関する研究 [L-アルギニン]	大竹 明	小児科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.3

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
日本人長鎖脂肪酸代謝異常症の診断方法の確立、及び治療方法の開発に関する研究	大竹 明	小児科	19,500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
重症・難治性急性脳症の病因解明と診療確立に向けた研究	山内 秀雄	小児科	600 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
自己免疫疾患に関する調査研究	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
関節リウマチ滑膜線維芽細胞におけるヒストン修飾とDNAメチル化の解析	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	2,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
CD8陽性T細胞におけるヒストンメチル化の制御ネットワークの解明	荒木 靖人	リウマチ 膠原病科	1,260 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
バイオマーカーに基づいた肺癌個別化治療における分子標的治療薬の至適治療法を検証するランダム化第Ⅲ相比較試験	萩原 弘一	呼吸器内科	3,700 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
特発性肺線維症急性増悪及び薬剤性肺障害に関与する日本人特異的遺伝素因に関する研究	萩原 弘一	呼吸器内科	42,577 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
薬剤性肺障害・特発性肺線維症急性増悪の遺伝学的研究	萩原 弘一	呼吸器内科	4,200 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
分子標的薬暴露癌細胞の中長期生存分子機構の解明と新規癌関連遺伝子同定への応用	萩原 弘一	呼吸器内科	1,500 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバント療法の臨床研究	永田 真	呼吸器内科	1,500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
モバイル・インターネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究	永田 真	呼吸器内科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
難治性喘息の気道炎症病態の解析	永田 真	呼吸器内科	1,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
難治性喘息におけるヘルパーT17型免疫応答の意義に関する研究	中込 一之	呼吸器内科	900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
標準化半定量Real-time PCRを用いた呼吸器感染症の包括的迅速診断法	平間 崇	呼吸器内科	1,400 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
特定地域に集中する疾患関連遺伝子の同定	田中 知明	呼吸器内科	3,000 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
国内におけるト正常細胞分譲システム網の確立	石原 理	産科・婦人科	1,200 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 9

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.5

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
術中大量出血時の凝固障害機序の解明と止血のための輸血療法の確立-手術中の大量出血をいかにして防ぐか-	板倉 敦夫	産科・婦人科	700 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
脱落膜化異常が関与する疾患の病態解明とその治療について	梶原 健	産科・婦人科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
NKT細胞のアジュバント効果を応用したAPS制御の為の基礎的研究	鈴木 元晴	産科・婦人科	1,600 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
腰痛の診断、治療に関する研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」	高橋 啓介	整形外科	1,200 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
骨粗鬆症の尿スクリーニング検査の費用対効果に関する研究	田中 伸哉	整形外科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
p53欠損マウスを用いた再生軟骨周囲の軟骨膜様組織における再生誘導機構の解明	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
難治性潰瘍に対する酸素環境設計と新しいバイオマテリアルによる血管新生療法の開発	市岡 滋	形成外科 ・美容外科	700 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
スフィンゴシンーリン酸を用いた骨培養効率化	佐藤 智也	形成外科 ・美容外科	1,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.6

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
運動療法がメタボリック症候群の血管内皮・単球・血小板機能と動脈硬化に及ぼす影響	倉林 均	リハビリテーション科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
フォン・ヒッペルリンドウ病の病態調査と診断治療系確立の研究	米谷 新	眼科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
35型アデノウイルスベクターによる遺伝子治療の開発とその遺伝子発現制御	森 圭介	眼科	700 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する調査研究	倉持 朗	皮膚科	1,100 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の標準化に関する研究	中村 晃一郎	皮膚科	1,650 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
パーチット病に関する調査研究	中村 晃一郎	皮膚科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
HUMARA assayおよび免疫染色を用いた咀嚼筋腱膜過形成症の病態解明	依田 哲也	歯科・口腔外科	900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
高齢者に多発する誤嚥性肺炎、感染症、口腔乾燥症の予防、診査用マルチ口腔機能測定装置の開発	依田 哲也	歯科・口腔外科	1,200 千円	補 独立行政法人 科学技術振興 委 機構

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.7

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨細胞分化および細胞間ネットワーク制御におけるsemaphorinの関与の検討	佐藤 毅	歯科・口腔外科	900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
Calciphylaxis の診断・治療に関わる調査・研究	中元 秀友	総合診療内科	700 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
脳腫瘍の診断と治療に有効なミクログリア／マクrofageのサブタイプの同定	佐々木 惇	病理学	1,900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
悪性神経膠腫における腫瘍前駆細胞とそのニッチの同定	佐々木 惇	病理学	200 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
脳腫瘍の形態・遺伝子分類の確立 一腫瘍の生物活性をよく反映する病理診断をめぐって	佐々木 惇	病理学	100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
Alzheimer病：脳βアミロイド沈着防止方法の神経病理学的検討	佐々木 惇	病理学	200 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 6

合計 55

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.1

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia Research 34:974-980, 2010	Differences in the distribution of subtypes according to the WHO classification 2008 between Japanese and German patients with refractory anemia according to the FAB classification in myelodysplastic syndromes.	別所正美	血液内科
埼玉医科大学雑誌 37:93-101, 2011	悪性リンパ腫症例における帯状疱疹合併例の検討	別所正美	血液内科
Hematological Oncology 28:68-74, 2010	Multicentre phase II study of CycloBEAP plus rituximab in patients with diffuse large B-cell lymphoma.	別所正美	血液内科
Bone Marrow Reseach , 2011	A case of monoclonal lymphoplasmacytosis of bone marrow with IgM-positive Russel bodies.	中村裕一	血液内科
日本臨床 2010年別冊, 肝・胆道系 症候群 I (第2版) : 肝臓編 (上) : 289-294, 2010	劇症肝炎 (Fulminant Hepatitis)	持田智	消化器内科 ・ 肝臓内科
今日の移植 23:315-319, 2010	劇症肝炎患者への肝移植適応: 内科の立場から	持田智	消化器内科 ・ 肝臓内科
治療学 44:66-69, 2010	診断/治療のピットフォール: de novoのB型劇症肝炎	持田智	消化器内科 ・ 肝臓内科
厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策事業 (肝炎分野) 「免疫抑制薬, 抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎再活性化の実態解明と対策法の確立」班, 平成22年度研究報告書 1-14, 2011	免疫抑制薬, 抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎再活性化の実態解明と対策法の確立	持田智	消化器内科 ・ 肝臓内科

計 8

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.2

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班」平成22年度報告書 91-94, 2011	我が国における「急性肝不全」の概念, 診断基準の確立	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
劇症肝炎の診療ガイド 2-9, 2010	劇症肝炎の診断と分類	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班」平成22年度報告書 118-120, 2011	成因不明の肝不全症例における分類法の確立: データマイニングによる分類法の作成	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
埼玉県医学会雑誌 45:30-32, 2010	小腸疾患の診断におけるカプセル内視鏡検査の有用性	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
日本臨床検査自動化学会会誌 35:192-196, 2010	凝固線溶検査の標準化 プロトロンビン時間による肝障害の評価	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
日本消化器病学会雑誌 107:1-7, 2010	女性医師の社会的使命	名越 澄子	消化器内科 ・肝臓内科
日本高齢消化器病学会誌 13:157-161, 2011	高齢型慢性肝炎患者に対するリバビリン併用ペグインターフェロン α 2b療法の補強治療としてのペグインターフェロン α 2a単独療法の有用性	名越 澄子	消化器内科 ・肝臓内科
Rad Fan 8:86-88, 2010	【超音波検査の更なる飛躍】 肝腫瘍におけるソナゾイド造影超音波検査の工夫 Prosound α 10を用いたSonazoid造影超音波検査の肝腫瘍の検出・鑑別診断における有用性と限界	中山 伸朗	消化器内科 ・肝臓内科

計 8

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.3

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器の臨床 13:267-270, 2010	C型肝炎：インターフェロン製剤の使い分けとその効果 インターフェロンβ.	水野 芳江	消化器内科 ・肝臓内科
Clin J Gastroenterol 4:19-23, 2011	A case of liver cirrhosis due to HCV infection complicating giant anorectal varices treated with balloon-occluded retrograde transvenous obliteration.	渡邊 一弘	消化器内科 ・肝臓内科
消化器内科 51:410-415, 2010	リツキシマブを用いない化学療法・免疫抑制療法によるHBV再活性化の実態	中尾 将光	消化器内科 ・肝臓内科
Diabetes 60:884-891, 2011	RIG-I- and MDA5-initiated innate immunity linked with adaptive immunity accelerates beta-cell death in fulminant type 1 diabetes.	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
N Engl J Med 364:907-917, 2011	Prevention of microalbuminuria in type 2 diabetes (ROADMAP Trial).	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
Therapeutic Research 31:1733-1739, 2010	ミグリトールの2型糖尿病患者145名に対する臨床使用成績、	犬飼 浩一	内分泌内科 ・糖尿病内科
Internal Medicine 49:1843-1847, 2010	Effects of telmisartan on insulin resistance in Japanese type 2 diabetic patients.	犬飼 浩一	内分泌内科 ・糖尿病内科
Recent Pat Cardiovasc Drug Discov 5:143-152, 2010	Retrospective, observation study: Quantitative and qualitative effect of ezetimibe and HMG-CoA reductase inhibitors on LDL-cholesterol: are there disappearance thresholds for small, dense LDL and IDL?	井上 郁夫	内分泌内科 ・糖尿病内科

計 8

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anal Chem 83;1131-1136, 2011	A Novel Geometrical Separation Method for lipoproteins using Bioformulated-Fiber Matrix Electrophoresis: The size of High-density Lipoprotein Does not Reflect Its Density.	井上 郁夫	内分泌内科 ・糖尿病内科
神経内科 73;619-621, 2010	医学生を対象とした2段階法での頭痛実態調査 自己の頭痛への認識で気分障害が軽減する	荒木 信夫	神経内科・ 脳卒中内科
脳卒中 33;246-250, 2010	3週間にわたって右上下肢にlimb shakingを呈し、 後に左内頸動脈閉塞による脳梗塞をきたした1例	荒木 信夫	神経内科・ 脳卒中内科
自律神経 47;138-143, 2010	定量的軸索反射性発汗試験に及ぼす性差、加齢の影響 ならびに特発性純粋発汗不全症への応用	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
神経内科 73;88-90, 2010	中枢神経サルコイドーシス鑑別診断のための脳脊 髄液ACE値	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
Neuropathology 30;586-596, 2010	Utility of in situ demonstration of lp loss and p53 overexpression in pathologic diagnosis of oligodendroglial tumors.	石澤 圭介	神経内科・ 脳卒中内科
Clinical Neurology 51;21-26, 2011	[A case of neuro-neutrophilic disease presenting with 5 months' with cognitive decline, meningoencephalitis, and marked systemic inflammatory findings, and diagnosed with brain biopsy]. [Japanese]	石澤 圭介	神経内科・ 脳卒中内科
J Headache Pain 11;255-258, 2010	Arterial spin-labeled MRI study of migraine attacks treated with rizatriptan.	加藤 裕司	神経内科・ 脳卒中内科
臨床神経学 51;21-26, 2011	5ヵ月にわたって自発性低下、髄膜炎、高度の全 身炎症所見が持続し、脳生検にて確定診断された神 経好中球病の1例	大江 康子	神経内科・ 脳卒中内科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること

2 論文発表等の実績

No.5

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
発汗学 18;41-42, 2011	Idiopathic pure sudomotor failure 女性例の特徴	二宮 充喜子	神経内科・ 脳卒中内科
日本臨床微生物学雑誌 20;113-117, 2010	気道由来検体からアスペルギルス属が分離された 症例の臨床的意義	山口 敏行	感染症科・ 感染制御科
J Pharmacol Exp Ther 334;673-678, 2010	The modulation of vascular ATP-sensitive K ⁺ channel function via the phosphatidylinositol 3-kinase-Akt pathway activated by phenylephrine.	東 俊晴	麻酔科
麻酔 60;132-137, 2010	ウサギ骨格筋における保存温度・期間による筋小胞 体からの (カルシウム) Ca ²⁺ とCa ²⁺ 放出速度の変化	塚本 真規	麻酔科
Annual Review 消化器 2011 ;350-357, 2011	鼠径ヘルニアの最新の治療—メッシュ素材を選択 する時代へ—	廣岡 映治	消化器・ 一般外科
J Clin Oncol 29;337-344, 2011	Phase I trial of a personalized peptide vaccine for patients positive for human leukocyte antigen—A24 with recurrent or progressive glioblastoma multiforme.	藤巻 高光	脳神経外科
J Neurosurg 114;1278-1287, 2011	Long-term surgical outcome and biological prognostic factors in patients with skull base meningiomas.	小林 正人	脳神経外科
Restor Neurol Neurosci 28;437-448, 2010	Effect of slow repetitive TMS of the motor cortex on ipsilateral sequential simple finger movements and motor skill learning	小林 正人	脳神経外科
Acta Neurochirgia (Wien) 152;279-285, 2010	Interdural approach to parasellar tumors.	小林 正人	脳神経外科
Urology 76;49-52, 2010	Acute scrotum caused by vasitis with abscess formation in children with lower urological anomalies.	大野 康治	小児外科
Adv Perit Dial. 26;53-57, 2011	Efficacy and safety of ezetimibe and low-dose simvastatin as primary treatment for dyslipidemia in peritoneal dialysis patients.	鈴木 洋通	腎臓内科
Adv Perit Dial. 26;61-66, 2011	Survival of patients over 75 years of age on peritoneal dialysis therapy.	鈴木 洋通	腎臓内科

計 12

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cardiol Res Pract. . 2010	Height constitutes an important predictor of mortality in end-stage renal disease.	竹中恒夫	腎臓内科
Clin Exp Hypertens. 32:227-233, 2010	Seasonal variations of daily changes in blood pressure among hypertensive patients with end-stage renal diseases.	竹中恒夫	腎臓内科
BMC Med Inform Decis Mak. 13:8, 2011	Antihypertensive medication versus health promotion for improving metabolic syndrome in preventing cardiovascular events: a success rate-oriented simulation study.	大野洋一	腎臓内科
Nephrol Dial Transplant. 25:4107, 2010	Granulomatous interstitial nephritis in chronic lymphocytic leukaemia.	井上勉	腎臓内科
J Am Soc Nephrol. 21:2047-2052, 2010	Fibroblast expression of an I κ B dominant-negative transgene attenuates renal fibrosis.	井上勉	腎臓内科
日本腎臓学会雑誌 52:959-965, 2010	喫煙と高血圧の関与が示唆された若年発症の特発性結節性糸球体硬化症の1例	菊田知宏	腎臓内科
Clin Exp Hypertens 33:100-105, 2011	Telmisartan lowers home blood pressure and improves insulin resistance without correlation between their changes.	小林和裕	腎臓内科
日本小児循環器学会雑誌 26:407-412, 2010	低酸素濃度ガス吸入療法の中樞神経系に及ぼす影響に関する研究	雨宮伸	小児科
Pediatr Int 52:224-229, 2010	Health-related and diabetes-related quality of life in Japanese children and adolescents with type 1 and type 2 diabetes.	雨宮伸	小児科
J Clin Endocrinol Metab 95:5189-5198, 2010	小児のインスリン抵抗性	雨宮伸	小児科
Pediatr Int 53:240-242, 2011	Fatal case of mitochondrial DNA depletion with severe asphyxia in a newborn.	大竹明	小児科

計 11

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mol Genet Metab 103;220-225, 2011	Experimental evidence that phenylalanine is strongly associated to oxidative stress in adolescents and adults with phenylketonuria.	大竹 明	小児科
Brain Dev , 2011	Liver-specific mitochondrial respiratory chain complex I deficiency in fatal influenza encephalopathy.	大竹 明	小児科
Biochem Biophys Res Commun 407;213-218, 2011	A novel mutation of ALK2, L196P, found in the most benign case of fibrodysplasia ossificans progressiva activates BMP-specific intracellular signaling equivalent to a typical mutation, R206H	大竹 明	小児科
J Biol Chem 286;14963-14971, 2011	Marked induction of c-Maf protein during Th17 cell differentiation and its implication in memory Th cell development.	佐藤 浩二郎	リウマチ・ 膠原病科
Am J Physiol Cell Physiol 299 (2) :C464-476, 2010	Bioenergetic characterization of mouse podocytes.	梶山 浩	リウマチ・ 膠原病科
Clinical and Experimental of Rheumatology 29;43-49, 2011	Geranylgeranyl-pyrophosphate Regulates Secretion of Pentraxin 3 and Monocyte Chemoattractant Protein-1 from Rheumatoid Fibroblast-like Synoviocytes in Distinct Manners.	横田 和浩	リウマチ・ 膠原病科
BMC Bioinformatics 11 Suppl 7;S5, 2010	A quantitatively-modeled homozygosity mapping algorithm, qHomozygosityMapping, utilizing whole genome single nucleotide polymorphism genotyping data.	萩原 弘一	呼吸器内科
N Engl J Med 362;2380-2388, 2010	Gefitinib or chemotherapy for non-small-cell lung cancer with mutated EGFR.	萩原 弘一	呼吸器内科

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本職業・環境アレルギー学会雑誌 2;11-16, 2011	環境アレルゲンと“One Airway One Disease”	永田 真	呼吸器内科
アレルギー 60;207-213, 2011	トリコフィトンの職業性曝露が増悪の原因と考えられた気管支喘息の1例.	中込 一之	呼吸器内科
アレルギー 59;688-698, 2010	鼻炎症状と喘息症状の連関についてのアンケート調査	中込 一之	呼吸器内科
Int Arch Allergy Immunol. 152;41-46, 2010	Changes in airway inflammation and hyperresponsiveness after inhaled corticosteroid cessation in allergic asthma.	中込 一之	呼吸器内科
Int Arch Allergy Immunol. 152;32-40, 2010	Salbutamol modulates the balance of Th1 and th2 cytokines by mononuclear cells from allergic asthmatics.	山口 剛史	呼吸器内科
日本医事新報 4526;60-66, 2011	埼玉県西部地区における2009/2010シーズンのインフルエンザ対策	平間 崇	呼吸器内科
Journal of Hospital Infection 77;257-262, 2011	Tuberculosis screening programme using the QuantiFERON-TB Gold test and chest computed tomography for healthcare workers accidentally exposed to patients with tuberculosis.	平間 崇	呼吸器内科
Intern Med 49;1797-1800, 2010	Ehlers-Danlos syndrome type IV, vascular type, which demonstrated a novel point mutation in the COL3A1 gene.	石川 里奈子	呼吸器内科
J Obstet Gynecol Res 36;254-259, 2010	Limitations of internal iliac artery ligation for the reduction of intraoperative hemorrhage during cesarean hysterectomy in cases of placenta previa accrete.	板倉 敦夫	産婦人科
日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 47;405-409, 2010	子宮留血腫を繰り返す子宮頸管閉鎖に低用量ピル連続内服が有効であった一症例	岡垣 竜吾	産婦人科

計 10

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Feril Steril. 95(4);1302-1307, 2010	Human chorionic gonadotropin confers resistance to oxidative stress-induced apoptosis in decidualizing human endometrial stromal cells.	梶原 健	産婦人科
Molecular Human Reproduction 16;273-285, 2010	Proteomic analysis of endometrium from fertile and infertile patients suggests a role for Apolipoprotein A-1 in embryo implantation failure and endometriosis.	梶原 健	産婦人科
日本産科婦人科学会関 東連合地方部会誌 47;101-106, 2010	骨盤臓器脱に対する Tension-free vaginal mesh (TVM) 手術における術式の改変とそれに伴う予後の違い	西林 学	産婦人科
日本産科婦人科学会関 東連合地方部会誌 47;475-480, 2010	卵管妊娠および部位不明妊娠に対する全身MTX 療法と血中hCG 値の推移 -16 症例の解析より-	難波 聡	産婦人科
Cellular & Molecular Immunology 7;227-234, 2010	Bisphenol A in combination with TNF- α selectively induces Th2 cell-promoting dendritic cells in vitro with an estrogen-like activity.	鈴木 元晴	産婦人科
日本産科婦人科学会関 東連合地方部会誌 47;308, 2010	分娩誘発の成否を分けるキー・ファクター229例の検討	鈴木 裕之	産婦人科
Psychopharmacology 213;1-9, 2011	Angiotensin II type1 receptor blockers improve insulin sensitivity in patients with schizophrenia being treated with olanzapine.	山下 博栄	神経精神科 ・心療内科
Schizophrenia Research 123;244-250, 2010	Prevalence of metabolic syndrome among patients with schizophrenia in Japan.	山下 博栄	神経精神科 ・心療内科

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
整形外科 61:301-307, 2010	人工股関節全置換術における術前テンプレート ングの問題点 —CTを用いた三次元的検討—	織田 弘美	整形外科 ・脊椎外科
The American Journal of Sports Medicine 38:965-971, 2010	Repair Integrity Evaluated by Second-Look Arthroscopy After Arthroscopic Meniscal Repair With the Fas T-Fix During Anterior Cruciate Ligament Reconstruction	織田 弘美	整形外科 ・脊椎外科
日本東洋医学雑誌 61:834-839, 2010	鍼通電刺激が僧帽筋血流量に及ぼす影響—99mTcO4 —クリアランス法による検討	高橋 啓介	整形外科 ・脊椎外科
脊椎脊髓 23:686-690, 2010	腰部脊柱管狭窄症による歩行障害—間欠跛行	高橋 啓介	整形外科 ・脊椎外科
リウマチ科 43:629-635, 2010	骨粗鬆症の評価法 —骨塩定量、骨代謝マーカ ーなど	宮島 剛	整形外科 ・脊椎外科
Hip joint 36:134-137, 2010	日本人におけるacetabular retroversion	田中 啓仁	整形外科 ・脊椎外科
Hip joint 36:231-234, 2010	人工股関節全置換術術前計画における遠位大腿骨 髓腔の評価	田中 啓仁	整形外科 ・脊椎外科
Hip joint 36:462-465, 2010	寛骨臼回転骨切り術の術後成績の検討 (二ノ宮分類 を除いて)	渡會 恵介	整形外科 ・脊椎外科
日本人工関節学会誌 40:578-579, 2010	工藤式人工肘関節の術後成績	渡會 恵介	整形外科 ・脊椎外科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.11

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Knee 18:83-87, 2011	Fixation strength of the interference screw in the femoral tunnel: The effect of screw divergence on the coronal plane.	二宮 忠明	整形外科 ・脊椎外科
Spine 35:1760-1768, 2010	Biomechanical evaluation of a posterolateral lumbar disc arthroplasty device: an in vitro human cadaveric model.	吉川 淳	整形外科 ・脊椎外科
Spine 35:E1465-1471, 2010	Multidirectional flexibility of the spine following posterior decompressive surgery after single-level cervical disc arthroplasty: an in vitro biomechanical investigation.	吉川 淳	整形外科 ・脊椎外科
日本褥瘡学会誌 13:37-44, 2011	多血小板血漿を用いた新しい褥瘡治療の試み 基礎研究および臨床応用	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科
Microsurgery 31:150-154, 2011	One-sided soft palatal reconstruction with an anterolateral thigh fasciocutaneous flap: report of two cases.	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科
Head Neck 33:383-388, 2011	Morphologic study of mandibles in Japanese patients for mandibular reconstruction with fibular free flaps.	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg 63:1196-1201, 2010	Optimal technique for microvascular anastomosis of very small vessels: Comparative study of three techniques in a rat superficial inferior epigastric arterial flap model.	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科
International Journal of Colorectal Disease 26:653-659, 2011	New application of the gluteal fold flap for the treatment of anorectal stricture.	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科
J Wound Care 19:361-364, 2010	Hydroxyurea-induced foot ulcer in a case of essential thrombocythemia.	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科

計 9

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arch Gerontol Geriat 51;205-208, 2010	Platelet activation is caused not by aging but by atherosclerosis	倉林 均	リハビリ テーション科
日本耳鼻咽喉科学会会報 113;798-804, 2010	IgG4関連Mikulicz病の3症例	柴崎 修	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科展望 53;79-84, 2010	外耳への新たな薬液投与方法について -外耳スプレーの臨床応用に向けて-	柴崎 修	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床 103;291-301, 2010	第8脳神経の対する神経血管圧迫症候群について	伊藤 彰 紀	神経耳科
Equilibrium Research 69;401-411, 2010	電気眼振図 (ENG) の検査法と診断的意義について	伊藤 彰 紀	神経耳科
Ophthalmology 118;93-100, 2011	Complement factor H and high-temperature requirement A-1 genotypes and treatment response of age-related macular degeneration.	森 圭 介	眼科
Ophthalmology 117;928-938, 2010	Phenotype and genotype characteristics of age-related macular degeneration in a Japanese population.	森 圭 介	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 51;3210-3215, 2010	Retinal adaptability loss in serous retinal detachment with central serous chorioretinopathy.	森 圭 介	眼科
J Ocul Biol Dis Inform 3;53-59, 2010	CFH, VEGF, and PEDF genotypes and the response to intravitreal injection of bevacizumab for the treatment of age-related macular degeneration.	森 圭 介	眼科
臨床眼科 64;531-535, 2010	滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学療法 の長期成績	土橋 尊 志	眼科

計 10

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.13

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚科の臨床 53;209-213, 2011	プロピルチオウラシルによるANCA関連血管炎の1例—Buerger病合併例—	倉持 朗	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 120;2741-2768, 2010	神経線維腫症1型の神経原性腫瘍に対する対応	倉持 朗	皮膚科
日本レックリングハウゼン病学会雑誌 1;39-48, 2010	Neurofibromatosis type 1 (NF1) にみられる Unidentified Bright Objects (UBOs)	倉持 朗	皮膚科
Journal of Skin Cancer 2011;4, 2011	Superficial Type of Multiple Basal Cell Carcinoma: Detailed Comparative Study of Its Dermoscopic and Histopathological Findings.	倉持 朗	皮膚科
Exp Dermatol 19;e136-141, 2010	Decreased expression of neurofibromin contributes to epithelial-mesenchymal transition in neurofibromatosis type1.	倉持 朗	皮膚科
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 神経皮膚症候群に関する調査研究 平成22年度 総括・分担研究報告書 ;59-64, 2011	融合プロテオミクスによる神経系細胞分化に関わるNF1腫瘍抑制遺伝子関連タンパク質の解析	倉持 朗	皮膚科
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 神経皮膚症候群に関する調査研究 平成22年度 総括・分担研究報告書 ;75-85-2011	神経線維腫症1型の瀰漫性神経線維腫に対する対応	倉持 朗	皮膚科
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 神経皮膚症候群に関する調査研究 平成22年度 総括・分担研究報告書 ;115-117, 2011	結節性硬化症の麻酔経験	倉持 朗	皮膚科

計 8

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本皮膚科学会雑誌 120;1901-1905, 2010	ベーチェット病の補助診断法としての自家唾液によるプリック反応	中村 晃一郎	皮膚科
Inflammation and Allergy 10;164-170, 2010	Diagnostic prick reaction with self-saliva in patients with oral aphthosis : a simple and reliable approach for Behcet's disease and recurrent aphthosis.	中村 晃一郎	皮膚科
臨床泌尿器科 64;535-544, 2010	男性の尿失禁	朝倉 博孝	泌尿器科
内分泌外科 28;33-37, 2011	泌尿器腹腔鏡下手術認定医取得後5年間の単一術者による31例の副腎手術の検討	矢内原 仁	泌尿器科
Urology 76(3);548-552, 2010	Impact of Hospital Volume on Postoperative Complications and In-hospital Mortality After Renal Surgery: Data From the Japanese Diagnosis Procedure Combination Database.	矢内原 仁	泌尿器科
Urology 76;1267e1-1267e6, 2010	Enhanced antitumor effect of coincident intravesical gemcitabine plus BCG therapy in an orthotopic bladder cancer model.	堀 永 実	泌尿器科
Oncology Letters 2;13-19, 2011	Enhanced antitumor effect of intravesical MMC plus BCG therapy in an orthotopic bladder cancer model.	堀 永 実	泌尿器科
Anesthesia and Resuscitation 46;55-58, 2010	Is nitrous oxide inhalation beneficial for extended TRUS-guided prostate needle biopsies?	堀 永 実	泌尿器科

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgery Today (Springer) 40:706-710, 2010	BiClamp forceps significantly shorten the operation time for breast surgery.	大崎昭彦	乳腺腫瘍科
Pathology International 60:305-315, 2010	Comparison of immunohistochemistry assays and real-time reverse transcription-polymerase chain reaction for analysing hormone receptor status in human breast carcinoma.	大崎昭彦	乳腺腫瘍科
J Steroid Biochem Mol Biol 123:1-7, 2011	Estrogen-related receptor gamma modulates cell proliferation and estrogen signaling in breast cancer.	大崎昭彦	乳腺腫瘍科
Breast J 16:660-662, 2010	Early reduction in standardized uptake value after one cycle of neoadjuvant chemotherapy measured by sequential FDG PET/CT is an independent predictor of pathological response of primary breast cancer.	大崎昭彦	乳腺腫瘍科
Breast Cancer Epub ahead of print, 2010	Early metabolic response to neoadjuvant letrozole, measured by FDG PET/CT, is correlated with a decrease in the Ki67 labeling index in patients with hormone receptor-positive primary breast cancer: a pilot study.	大崎昭彦	乳腺腫瘍科
Mol Endocrinol 25:474-481, 2011	Suppression of BMP-Smad signaling axis-induced osteoblastic differentiation by small C-terminal domain phosphatase 1, a Smad phosphatase.	依田哲也	歯科・口腔外科
J Biol Chem 285:15577-15586, 2010	Dual roles of smad proteins in the conversion from myoblasts to osteoblastic cells by bone morphogenetic proteins.	依田哲也	歯科・口腔外科

計 7

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Asian Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 23;7-9, 2011	Significant association of HLA-Cw and HLA-DRB1 alleles with recurrent aphthous stomatitis.	坂田 康 彰	歯科・口腔外科
Endocrinology 151;5489-5496, 2010	Functional hypothalamic amenorrhea due to increased CRH tone in melanocortin receptor 2-deficient mice.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
Endocrinology 152;1652-1660, 2011	The role of glucocorticoids in pregnancy, parturition, lactation, and nurturing in melanocortin receptor 2-deficient mice.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
Biochem Biophys Res Commun 403 (3-4) ; 253-257, 2010	The role of endogenous glucocorticoid in lymphocyte development in MC2R-/- mice.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
Dentomaxillofac Radiol 2010 40;91-95, 2011	Preliminary results of a study comparing conventional radiography with phase-contrast radiography for assessing root morphology of mandibular third molars.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
FEBS Lett 584;817-824, 2010	Functional role of acetylcholine and the expression of cholinergic receptors and components in osteoblasts.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
Biomol Concepts 1;357-366, 2010	Non-neuronal regulation and repertoire of cholinergic receptors in organs.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
日本顎関節学会雑誌 22, 158-162, 2010	咀嚼筋腱膜過形成症の1例—手術後の咬筋腱膜と側頭筋腱の変化について—	中本 紀道	歯科・口腔外科
Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery 22;189-193, 2010	Treatment of A Case with Cleft Lip and Palate using Plates Made of F-u-HA/PLLA in Le Fort I osteotomy.	中本 紀道	歯科・口腔外科

計 9

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.17

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
腎と透析 (東京医学社) 別冊 腹膜透析2010 69:722-725, 2010	透析患者の終末期医療に関するコメディカルスタッフの認識度全国調査	中元秀友	総合診療内科
Ther Apher Dial 14:505-540, 2010	Overview of regular dialysis treatment in Japan (as of 31 December 2008).	中元秀友	総合診療内科
Adv Perit Dial 26:71-74, 2010	Prospective multicenter observational study of encapsulating peritoneal sclerosis with neutral dialysis solution ? the NEXT-PD Study	中元秀友	総合診療内科
J Gastroenterol Hepatol 25:706-711, 2010	Autofluorescence videoendoscopy system using the SAFE-3000 for assessing superficial gastric neoplasia.	今枝博之	総合診療内科
J Gastroenterol Hepatol 25:1850-1854, 2010	Clinical results of observation of the upper gastrointestinal tract by transgastrostomic endoscopy using an ultrathin endoscope.	今枝博之	総合診療内科
Gastrointest Endosc 72:643-646, 2010	In vivo visualization of trophozoites in patients with amoebic colitis by using a newly developed endocytoscope.	今枝博之	総合診療内科
Dig Endosc 22:366-369, 2010	The "Anchor clip technique" helps in easy prevention of post-polypectomy hemorrhage of large colonic polyps.	今枝博之	総合診療内科
Intern Med. 49:1797-1800	Ehlers-Danlos syndrome type IV, vascular type, which demonstrated a novel point mutation in the COL3A1 gene.	兒玉圭司	総合診療内科

計 8

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
糖尿病 54:27-33, 2011	75g経口ブドウ糖負荷2時間後尿中ミオイノシトールを指標とした耐糖能低下者の検討.	池田 斉	健康管理センター
人間ドック学会誌 25:90-94, 2010	乳腺超音波検診の検査精度向上へ向けて二次検査についての検討	清水 正 雄	健康管理センター
人間ドック学会誌 25:537-540, 2010	男女混合健診における女性受診者の受診環境改善への取り組み 健診プラ導入の検討	清水 正 雄	健康管理センター
埼玉県臨床検査技師会 雑誌 57:15-20, 2010	アーキテクトBNP-JPの基礎的評価	森 吉 美 穂	中央検査部
Rinsho Byori 58:1188-1192, 2010	Analysis of the plasma concentration of tacrolimus: a useful method for distinguishing falsely elevated tacrolimus concentration reported by the ACMIA.	森 吉 美 穂	中央検査部
日本臨床検査自動化学 会誌 35:253-259, 2010	コバス TaqMan®を用いた HBV-DNA、HCV-RNA、HIV-1 RNA 測定の基礎検討	池 淵 研 二	中央検査部
病理技術 74:, 2010	PNA-LNA PCR clamp法によるEGFR遺伝子変異検出について	池 淵 研 二	中央検査部
Int J Cancer 126:651-655, 2010	Frequency and variables associated with the E GFR mutation and its subtypes.	池 淵 研 二	中央検査部

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Immunol 35:459-465, 2010	Enhanced expression of lymphoma-genesis-related genes in peripheral blood B cells of chronic hepatitis C patients	池淵 研二	輸血・細胞移植部
J Interferon Cytokine Res 30:243-252, 2010	Possible recruitment of peripheral blood CXCR3+CD27+CD19+ B cells to the liver of chronic hepatitis C patients.	池淵 研二	輸血・細胞移植部
臨床血液 51:1674-1679, 2010	放射線治療後眼窩MALTリンパ腫患者に顕在化した Hairy Cell Leukemia Japanese variant	茅野 秀一	病理学
法医学の実際と研究 53:75-79, 2010	劇症型A群溶連菌感染症による乳児急死例	茅野 秀一	病理学
日本臨床細胞学会雑誌 49:248-253, 2010	甲状腺乳頭癌でみられる多核巨細胞についての検討	茅野 秀一	病理学
外科 72:435-437, 2010	腸閉塞で発症した腸管子宮内膜症の1例	茅野 秀一	病理学
J Skin Cancer , 2011	Superficial type of multiple basal cell carcinomas: Detailed comparative study of its dermoscopic and histopathological findings.	新井 栄一	病理学
Hum Mutat 31:966-974, 2010	Loss-of-function mutations of CHST14 in a new type of Ehlers-Danlos syndrome.	新井 栄一	病理学
J Neuropathol Exp Neurol 69:498-510, 2010	Expression of hydroxyindole-O-methyltransferase enzyme in the human central nervous system and in pineal parenchymal cell tumors.	佐々木 惇	病理学
Neurol Res 32:472-475, 2010	Familial amyloid polyneuropathy (Finnish type) presenting multiple cranial nerve deficits with carpal tunnel syndrome and orthostatic hypotension.	佐々木 惇	病理学

計 10

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.20

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Internal Medicine 49:2241-2246, 2010	Primary bilateral adrenal diffuse large B-cell lymphoma demonstrating adrenal failure	佐々木 惇	病理学
日本臨床 増刊号 新時代の脳腫瘍学 127-131, 2010	膠芽腫、星細胞腫	佐々木 惇	病理学

計 2

合計 170

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 片山 茂裕		
管理担当者氏名	医務部長	奥富 篁幸	総務部長 茂木 明
	薬剤部長	北澤 貴樹	医療安全対策室長 金澤 實
	利用者相談室長	斉藤 喜博	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療情報管理室 医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管理している。 X-Pフィルムは、フィルム保管庫及びCR化にて一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	/
	高度の医療の提供の実績	医務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務部	
	高度の医療の研修の実績	医務部	
	閲覧実績	医務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務部 薬剤部	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室
	の十一	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室
	第一項各号及び	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室
	第九	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室
	条の二十三	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室
	第一項第一号に掲げる	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室
	体制の確保の	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室
	状況	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者相談室

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染のための指針の策定状況		
	第一項各号及び第九	院内感染対策のための委員会の開催状況		
	第二十三	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
	第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況		
	第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		
	第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況			
第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況			
第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況			
第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況			
第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況			

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	第規一則号第一に掲げる十一体の第一項各号状及び第九條の二十三第一項	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEサービス部	/
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEサービス部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長 奥富 篁幸
閲覧担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸
	総務部長 茂木 明
	薬剤部長 北澤 貴樹
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.2 %	算定期間	平成22年 4月 1日～平成23年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	14,709 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,355 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,541 人	
	D：初診の患者の数	43,312 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 第 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

①医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>指針の主な内容：</p> <p>1. 医療安全管理指針：平成14年11月19日制定 大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。</p> <p>2. 診療基本マニュアル（平成10年初版）（完全版：平成23年4月1日刷、ポケット版：平成23年9月1日刷） 大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、A4サイズの完全版のほか、マニュアルの要点をまとめたポケット版がある。A4完全版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は(1)診療の基本、(2)正しい保険診療、(3)医療安全の基本、(4)医療安全対策総論、(5)医療安全対策各論、(6)問題発生時等への対応の六章から構成されている。掲載内容は診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。</p> <p>3. 埼玉医科大学病院マニュアル集 全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準、手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっており、直近の追録加除整理は平成23年9月1日である。マニュアル集の収録内容は、医療安全管理指針、診療基本マニュアル完全版、医薬品業務手順書第4版、消毒薬使用指針、褥瘡対策マニュアル、感染性廃棄物取扱手順書、医療ガス保守点検指針、指定施設等不在者投票処理要領、輸血マニュアルである。</p> <p>4. その他のマニュアル 各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。 電子カルテ運用マニュアル（情報システム部）、院内感染防止対策マニュアル（院内感染防止対策委員会）、放射線科診療安全マニュアル（中央放射線部）、看護基準・手順（看護部）、診療記録等の開示実施マニュアル（医療情報提供委員会）、災害対策マニュアル（防災対策委員会）、血液浄化マニュアル（血液浄化部）、医療機器安全管理指針（中央機材室・MEサービス部）、学校法人埼玉医科大学規程集</p>	
②医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 11回
<p>活動の主な内容：</p> <p>医療安全対策委員会：医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。委員長は病院長をとし、同委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会（ヒヤリ・ハット事例等を分析・検討する委員会）において検討した事項の報告を受け、安全確保を目的として立案された方策を決定する役割を担っている。決定事項は、科長会議において報告、審議される。</p>	

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 第 3 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			年 26回
研修の主な内容：表の通り			
研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数
研修会	4月13日	インスリンと医療安全	100
マニュアル講習会	5月10日	診療基本マニュアル機器講習会	107
研修会	5月11日	個人情報保護研修会	180
学習会	6月25日	病院の安全と5S活動	55
学習会	7月23日	診療における危険予知	71
学習会	8月23日	病院における接遇を考える	391
学習会	8月27日	医療事故要因分析(RCA)	139
学習会	8月30日	呼吸アセスメントの必須項目、気道確保	18
学習会	9月15日	保険診療の理解のために	142
学習会	9月17日	コミュニケーションを考える	117
学習会	9月27日	RSTミニレクチャー	29
医療機器講習会	10月12日	医療機器秋期講習会	545
学習会	10月22日	みんなで考えよう医療事故	110
学習会	10月22日	新型インフルエンザの初動対応の安全を振り返る	207
学習会	10月25日	RSTミニレクチャー	23
講演会	11月25日	インスリンと医療安全	41
講演会	11月25日	カテーテルを用いた尿路管理について	47
学習会	11月29日	RSTミニレクチャー	20
学習会	12月6日	クレーム対応	137
学習会	12月27日	RSTミニレクチャー	11
講演会	1月26日	静脈栄養の正しい実施方法	97
学習会	1月28日	安全な業務を遂行するためには	47
学習会	1月31日	RSTミニレクチャー	26
学習会	2月28日	RSTミニレクチャー	18
学習会	3月7日	耐性菌の感染対策、教訓から考える医療安全	328
研修会	3月10日	医薬品・医療機器・臨床研究合同研修会	117
学習会	3月16日	耐性菌の感染対策、教訓から考える医療安全	291
学習会	3月28日	RSTミニレクチャー	12
研修会	3月29日	リスクマネジメント研修	413
④医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ヒヤリ・ハット事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会である医療安全対策小委員会の委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を同小委員会(月1回開催)で検討する。検討された内容は、医療安全対策委員会で報告、事故防止の改善方策等の決定を受け、科長会議、看護師長会議、医療安全対策実務者会議で伝達され、各部署へフィードバックされる。またヒヤリ・ハット事例は、厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ定点医療機関として報告している。</p> <p>アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。</p> <p>ヒヤリ・ハット事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。</p>			

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

⑤専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊥(1名)・無
⑥専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊥(1名)・無
⑦医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊥・無
・所属職員： 専任（ 2）名 兼任（8）名 ・活動の主な内容： 大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。 1. 医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項 2. 事故発生時の対応状況についての確認 3. 医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動 4. 医療安全対策の企画，立案，実施，評価，記録 5. 医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整 6. 医療安全に関連する委員会の議事録，資料の作成ならびに保存 7. 事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認 8. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認	
⑧当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊥・無

(様式第13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況		① 有 ・ 無
指針の主な内容： 基本的な考え方、組織および体制に関する基本事項、従事者に対する研修の関する基本方針、感染症発生時の報告、感染症発生時の対応と連絡、報告体制、患者等に関する当該指針の閲覧		
②院内感染対策のための委員会の開催状況		② 有 ・ 無
・ 月1回開催 ・ 委員会内容：分離菌報告、耐性菌（VRE・MDRP等）発生報告と現状報告、ICTラウンド報告、手指衛生実施報告、針刺し切創報告、結核小委員会報告など		
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		③ 有 ・ 無
2010年	4月1日	PPE着脱のデモストレーションと安全機能付き器材の使い方
	4月27日	PPEの性能と選択のポイント(マスク・手袋)
	5月13・20日、6月17・24日、 7月17・24日	感染対策の基本
	5月26日	感染症と感染制御の基礎知識について
	6月4日	感染対策について知ってほしいこと
	6月21日	下痢・嘔吐症状を呈した患者の感染管理
	6月23日	微生物の特徴・検査データの見方について
	6月28日	HIV患者の感染予防対策
	6月30日、7月28日、8月11・25日	PPEの着脱をマスターしよう
	7月28日	関連下痢症と偽膜性腸炎について
	8月24日	正しいマスクの着脱とラウンドのポイント
	9月28日	感染防止技術
	9月30日、10月7・21日、10月7・21日、 11月4日	微生物のそこが知りたかった
	10月22日	新型インフルエンザの総括
	10月26日	結核の感染対策とN95マスクの着脱
	11月24日	培養の正しい取り方と血液培養の取扱い
11月26日	効果的な清掃方法の工夫	

	11月26日	カテーテルを用いた尿路管理について
	12月28日	PKPD理論
2011年	1月25日	VAP、SSI
	1月26日	静脈栄養の正しい実施方法
	2月22日	他部門との連携での感染対策
	3月7・16日	耐性菌の感染対策
	3月22日	栄養管理と栄養アセスメント
	3月29日	クロストリジウム・ディフィシルの感染対策
	3月30・31日	新採用者オリエンテーション

④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ 細菌検査室より情報提供され、院内感染対策室専従者およびICTが直ちに現場に出向き、情報収集するとともに速やかに院長へ報告する。
- ・ 主治医、管理者、感染制御リンクナースより感染対策実施状況を確認する。
- ・ ケア場面など実施状況を観察し、具体的な感染対策の立案をし、環境調整やケアなど具体的な対策の提案や指導を行い、感染対策上の問題点を検討し、必要な支援をし、原因追究につとめている。
- ・ レポートによる対策の周知を図り、関連部署、委員会、病院全体に情報誌などを活用し発信する。
- ・ 情報誌の内容としてICT通信、感染対策NEWSにMDRPおよびVRE発生状況を掲載し、現場へ情報提供

その他の改善のための方策の主な内容：

ICTラウンド報告書による現場へのフィードバックと共有をはかり、共有しケアの見直し
 針刺し切創サーベイランス、手指衛生サーベイランスの実施

(様式第13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容： 医療安全全体会で医薬品安全使用のための業務手順書第4版改訂について（平成23年3月10日） 看護部研修で医薬品安全使用についての講習（平成22年4月2日、平成22年9月4日） 薬剤部研修で医薬品安全使用についての講習（平成22年8月6日）	
③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ 有 ・ 無 ） 第4版改訂 （平成23年3月11日承認） ・ 業務の主な内容： 業務手順書の改訂を行い講習会にて周知を行った 年2回程度巡回を行い業務手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った 各病棟でも月2回業務チェックを行った	
④医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有 ・ 無 ） MRによる直接訪問、製薬メーカーからのFAX、メール、厚生労働省、PMDA、各種ホームページなどから情報の収集を行った ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品情報管理室にて情報を収集し緊急性の高い情報に関しては当日又は翌日に情報を発信した 毎月医薬品情報誌を作成し配布を行った 定数注射薬使用期限のチェック体制を強化した	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①有・無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 春季新入職医師・看護師対象、診療基本マニュアル機器講習会（人工呼吸器、除細動器）</p> <p>② 秋季医療機器安全講習会 （人工呼吸器、輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニタ、除細動器等）</p> <p>③ 医療機器安全使用講習会</p>	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 （①有・無）</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、閉鎖機器保育器、ライナック、輸液ポンプ、シリンジポンプ、ネブライザ、手術室医療機器各種点検</p>	
④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （①有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 中央機材室ニュース、学内LAN（イントラネット）ホームページに配信</p>	